

地域おこし協力隊と 地域の人との共創



今井 亮輔 (いまい りょうすけ)

1981年4月生まれ、神奈川県横浜市出身。システム開発の会社で15年働いた後、2021年11月より壮瞥町地域おこし協力隊に着任。地域おこし協力隊として2022年8月に道の駅「そうべつ情報館」の向かいに町のコミュニティスペース「地域のあそびば ミナミナ」を設置。個人としても、同時にワインとチーズとコーヒーのお店「ヨツカド商店」を開業。2023年には狩猟免許を取得。

【なぜ壮瞥町に移住？】

昔から、豊かな資源を持っている田舎が大好きで、田舎の豊かさを大切に守りたいと思っていました。そのためには都会生活者に対して、田舎の資源の豊かさに気づいてもらい、触れてもらう必要があると考えていました。

その手段として、ITの力が必要と考えて、新卒でシステム開発の会社に就職。都会での充実した生活を送っていましたが、ちょうど40歳という節目の歳の前、コロナ禍もあり、少し考える時間を持つようになり、本当に自分のやりたいことができているのか、自分と向き合う機会を持つようになりました。一度きりの人生を後悔なく生きたい、と。

田舎の豊かさを都会生活者に共有し、都会に豊かさを、田舎に消費をもたらすような循環をつくりたい、

何より自分も豊かな田舎で生活をしたい、という想いが強くなり移住を決断しました。豊かな資源を持つ北海道を中心に移住先を探し始めましたが、洞爺湖畔でほんやりと湖に移る雲や中島を眺めている時に「ここに住みたい！」と強く感じました。

そんな洞爺湖畔の中でも、洞爺湖の東側に位置し、湖を望む夕方の景色がきれいな壮瞥町に住みたいと思うようになりました。壮瞥町は洞爺湖畔の町の中では、開発が進んでいない印象で、まだまだいろいろなことにチャレンジできる可能性を感じたことも、壮瞥町にひかれた大きな要因です。

【地域おこし協力隊になった理由】

移住した後、人が集う場所、具体的には食材（自然派ワインやチーズなど）を集めた商店を併設したゲストハウスを、洞爺湖を望む場所につくりたいと思っていました。そこで壮瞥町や周辺地域の農作物や加工品、観光資源といった豊かな資源を発信し楽しんでもらうことで、都会生活者とのよい循環が生まれるイメージでした。

そんな折、壮瞥町で移住コンシェルジュという移住・定住担当の地域おこし協力隊の募集を発見しました。移住コンシェルジュとして、壮瞥町という地域をしっかりと理解し自分の言葉で都会生活者に発信すること、活動を通して地域のさまざまな方とつながることは、人が集う場所をつくる上で、大きなプラスになると思って、地域おこし協力隊に応募しました。

【これまでの活動】

これまでの活動は大きく2点。

1点目は移住促進に関わる活動で、オンラインでの移住相談やオンライン移住イベントの中で、壮瞥町がどのような町であるかを都会生活者に対して噛み砕いて説明し、魅力いっぱいの壮瞥町の素晴らしさを余す



洞爺湖の湖畔から見た夕日

ことなくお伝えしてきました。ご縁があって、北海道各地の移住コーディネーターからなる「北海道移住のすゝめ」という任意団体にも所属していて、北海道への移住を検討している都会生活者に寄り添った対応を行いつつ、移住促進の対応のノウハウを学ばせていただいています。

2点目は定住に関わる活動で、2022年8月に「地域のあそびば ミナミナ」という町のコミュニティスペースを設置し、運営しています。壮瞥町には町の中心地に人が集まる場所がなかったり、地域おこし協力隊が町民と触れ合う場がなかったり、気軽にイベントを開催できるスペースがなかったりという問題意識を移住してまもなく持つようになりまし。また、地域おこし協力隊の活動拠点がなかったため、地域おこし協力隊間での横連携がなかなか難しい状態でした。そのため、地域おこし協力隊の他のメンバーと力を合わせて、地域おこし協力隊が常駐するまちのコミュニティスペースを設置しました。

【地域おこし協力隊のやりがい】

地域の人と一緒に町課題に取り組んで、一緒につくりあげていくことができること、それが私の考える地域おこし協力隊の一番大きなやりがいであると思います。

「地域のあそびば ミナミナ」の設置にあたっては、都会から移住してきたからこそその観点で物事を捉えて、コミュニティスペースの設置という一つの形をつくることができましたが、地域の方々の協力が必要不可欠でした。というのも、長年の都会での社会人経験によりビジネスライクな進め方が身につけていたのですが、それではこの町の人とはついてこないと論じ、この町の中での物事の進め方のお作法を丁寧に教えてくれたのも地域の方ですし、オープンに向けての清掃や準備を手伝ってくれたのも地域の方でした。そして、関わってくれている地域の方を起点に人がつながり、町の方々が興味を持ってくれる場所になっていきました。

オープンに関わってくださった方々に、オープン直後にお礼を言うと、「いやいや、こんな素敵なお店をありがとう！わたしたちは協力隊の協力隊だから当然だよ。」と口を揃えておっしゃってくださり、とても感激したことを覚えています。

地域の方々と一緒に、地域に寄り添いつつもその地域ならではの新しい価値を生み出すことができる、そのことが大きなやりがいになっています。

【卒業後を見据え「ヨツカド商店」を開店】

2022年8月に「地域のあそびば ミナミナ」を設置しましたが、同時に地域おこし協力隊の活動とは別で、ワインとチーズとコーヒーのお店「ヨツカド商店」を開店し、妻と一緒に移住してきた仲間と共同経営しています。ヨツカド商店では食を中心に人が集まる場所を目指して作ったお店で、私たちが美味しいと思っているものを全国から集めるとともに、地元の美味しいものを取り込んで、小売店や飲食店として営んでいます。

地域おこし協力隊は任期が3年ですので、卒業後はこのヨツカド商店の営業にさらに力を入れていくことになります。

開店から1年数ヶ月が経ち、徐々に地域に馴染みはじめた感のあるヨツカド商店ですが、この地域ならではの「美味しい」を発信していきたいと思っています。



ヨツカド商店の外観

【今後のこと】

壮瞥町に移住してきて2年余り、当初洞爺湖の湖畔でゲストハウスを運営しつつ、商店を営むことを考えていましたが、結果的に湖畔ではない道の駅の向かいに商店を開店し経営しています。当初の予定とは少し異なりますが、道の駅の向かいでお店をやっていることで町内外の様々なお客様に触れることができ、とてもありがたいご縁であったなと、今は思っています。

最近町内にある有珠山や昭和山、周囲の山々など豊かな自然の魅力にも気付かされ、洞爺湖の湖畔ばかりではなく、町内のさまざまな場所でそれぞれの魅力を感じるようになりました。近い将来、自然に囲まれた町内のどこかでゲストハウスを営みながら、肥沃な土地を活用して家庭菜園で育てた野菜や、狩猟でとったエゾシカ肉といった土地の恩恵を受けながら、豊かに暮らしていきたいと思っています。